

# 山から ばたけ 来のエース

福山市子どもスポーツを取り巻く環境が進化している。野球の市民ボール福山ローズファイトース(RF)や社会人サッカーの福山シティアフットボールクラブ(FC)など一般のクラブチームが次々と子ども向けチームを発足。次代を担う世代の競技レベルの向上と、裾野拡大に力を入れている。

(東山慧介、猪股修平)



シティアFC (サッカー)

サッカー界では福山シティアFCが子どもへの普及活動を強化する。昨年11月、プロ選手を目標とする小学5、6年生を対象に技術向上を図るステップアップコースを開講。4月からは中学生対象の「シティアエースU-15」と小学生対象の「シティアU-12」の2チームを新設する。

スクール生の福山町の星小6年手巻雅雄(22)は「周りの

る。中学でもシティアでサッカーを続けてトップチームに入りたい」と目標を掲げる。

昨年12月中旬の午後7時、夜間照明に照らされた曙小(福山市曙町)のグラウンドでは、スクール生たち24人が実戦形式の練習に取り組んでいた。3チームに分かれて声をかけ合つて連携を取ったり、個人技で局面を打開したりと、真剣な表情でプレーしていた。

## 子ども向けチームクラブに続々



声をかけ合いながらランニングに励むU-15の選手たち。興で練習しているのが社会人選手

## U-15 全国4強入り

昨年12月、霧が降りる肌寒い朝。福山市内海町の旧内海中グラウンドに元気な声が響いた。練習をしているのは「福山RF U-15」の中学生。福山RFが、硬式野球を早いうちから体験してもらおうと、下部組織のチームとして2020年に結成

した。この日は、外野エリアでウォーミングアップをする子どもたちの横で、社会人選手がソックを受けていた。練習は基本的に社会人とは別メニューだが、社会人選手が子どもに捕球や送球の手本を見せる場面もあった。

福山市や尾道市、笠岡市から集まった。1期生の中学3年生17人が卒団し、現在は2年生5人、1年生10人の計15人で活動する。昨年3月に倉敷市などであった全国大会のヤングリーグ春季大会では4強入りを果たすなど成長著しい。

尾道市の長江中2年妹尾慶希(14)は「高校でも野球を続けて甲子園を目指したい。硬式野球をやりたい子が集まって練習できる場があったありがたい」と話していた。小田降士監督(33)は「とことん野球を楽しんで、より高いレベルで活躍してほしい」と期待している。



社会人選手(手前左)から守備の動きを教わるU-15の選手たち



ローザスレディースU-18・15 (サッカー)

## 盛り上がる女子

女子のスポーツも盛り上がりを見せている。

昨年10月、女子サッカーの「福山ローズレディース」は創設4年目のU-18と創設7年目のU-15がともに全国大会出場を決めた。城東中3年でU-15の枝広吏音(15)は「雰囲気も明るく互いにアドバイスで高め合える」とチームを表現する。

## 新たな受け皿も

福山RFは4月から中学軟式女子野球の「U-15ガールズ」をスタートする。昨年12月の野球教室に参加した尾道の向東小6年三宅花菜さん(12)は「中学でも野球を続けようと思ったときに、チームの選択肢が増えてうれしい。競技が広まって後輩が増えてほしい」と期待している。

ローズファイトースU-15ガールズ (野球)